



# システムのトラブルシューティング

- [トラブルシューティングの概要 \(1 ページ\)](#)
- [システムのトラブルシューティングの実行 \(1 ページ\)](#)
- [診断の実行 \(2 ページ\)](#)
- [トラブルシューティングでのトレースログの使用 \(4 ページ\)](#)
- [ユーザ ID エラーおよびディレクトリ URI エラーのトラブルシューティング \(13 ページ\)](#)

## トラブルシューティングの概要

IM and Presence の展開に関する問題のトラブルシューティングを行うには、この章の手順を使用します。IM and Presence Service の展開を使用して、以下が可能です。

- コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用してトレースログを作成し、問題解決に利用することができます。
- 診断を実行して、システムの問題を確認します。
- システムのトラブルシューティングを実行して、システムの状態を確認します。
- ディレクトリ URI の重複の問題のトラブルシューティングを行います。

## システムのトラブルシューティングの実行

トラブルシューティングを実行して、IM and Presence Service の展開に関する問題を診断します。以下のようなさまざまな問題がトラブルシューティングで自動的に確認することができます。

- システムに関する問題
- Sync Agent の問題
- プレゼンス エンジンの問題
- SIP プロキシの問題
- 予定表の問題

- クラスタ間接続の問題
- トポロジの問題
- Cisco Jabber の冗長性の割り当て
- 外部データベース エントリ
- サードパーティ コンプライアンス サーバ
- サードパーティ LDAP 接続
- LDAP 接続
- XCP ステータス
- ユーザ設定

### 手順

- 
- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、[診断 (Diagnostics)] > [システムトラブルシューター (System Troubleshooter)] を選択します。  
このトラブルシューティングでは、システムに対して一連の自動チェックを実行します。システム設定のトラブルシューティング ウィンドウに結果が表示されます。
- Step 2** トラブルシューティングで強調表示されている問題を解決します。
- 

## 診断の実行

稼働中のシステムの管理中に、システムの通常の動作に影響を与える問題が発生する場合があります。IM and Presence Service 診断ツールを使用すると、こういったの問題の根本的な原因を特定するのに役立てられます。

IM and Presence Service の診断ツールにアクセスするには、以下の手順を使用します。

ツールにアクセスするには、**Cisco Unified CM IM and Presence 管理** で、診断をクリックして、以下のいずれかのオプションを選択します。

### 手順

- 
- Step 1** **Cisco Unified CM IM and Presence 管理** で、診断を選択します。
- Step 2** ドロップダウンリストで、使用する診断ツールをクリックします。  
これらのツールの目的の詳細については、「診断ツールの概要」を参照してください。
-

## 診断ツールの概要

診断ツール	目的
システム ダッシュボード	<p>システムダッシュボードを使用して、これらのシステム コンポーネントの要約データ ビュー（デバイス数、ユーザー数、連絡先などのユーザー毎データ、およびプライマリ内線番号）を含む IM and Presence Service システムの状態のスナップショットを取得します。</p>
システム設定トラブルシューティング	<p>初期設定後または設定を変更した際に、随時 IM and Presence Service 設定の問題を診断するには、システム設定トラブルシューティングを使用します。トラブルシューティングでは、IM and Presence Service クラスタと[MISSING] 両方でテストセットを実行します。</p> <p>IM and Presence Service 設定を検証するための Cisco Unified Communications Manager クラスタ。</p> <p>このトラブルシュータのテストが終了すると、各テストで次の 3 つのステータスのいずれかがレポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テスト合格</li> <li>• テスト失格</li> <li>• テスト警告（設定に関する問題がある可能性を示す）</li> </ul> <p>不合格または警告となったテストごとに、問題点の説明と考えられる解決方法が示されます。不合格または警告となったテストごとに、解決策の列で[fix]リンクをクリックし、Cisco Unified Presence 管理ウィンドウに移動します。このウィンドウには、設定トラブルシュータで検出された問題が表示されます。見つかった設定エラーを修正して、トラブルシュータを再度実行します。</p>

## トラブルシューティングでのトレースログの使用

トレースを使用して **IM and Presence** サービスおよび機能に関するシステムの問題をトラブルシューティングします。さまざまなサービス、機能、およびシステムコンポーネントに対して自動システムトレースを設定することができます。結果は、**Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool** を使用して参照および表示ができるシステムログに保存されます。また、コマンドラインインターフェイスを使用して、システムログファイルのサブセットを取得し、自分の PC またはラップトップにアップロードして詳細な分析を行うことも可能です。

トレースを使用するには、まずシステムをトレース用に設定する必要があります。トレースを設定する方法の詳細については、**Cisco Unified Serviceability** 管理ガイドの「トレース」の章を参照してください。

トレースの設定後、以下の 2 つの方法のいずれかを使用して、トレースファイルの内容を表示することができます。

- **Real-Time Monitoring Tool:** **Real-Time Monitoring Tool** を使用して、システムトレースの結果として作成された個々のログファイルを参照および表示することができます。**Real-Time Monitoring Tool** の使用法の詳細については、**Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool** 管理ガイドを参照してください。
- **コマンドラインインターフェイス (CLI) :** システムトレースが設定されている場合は、CLI を使用してシステムログからカスタマイズされたトレースを作成します。CLI を使用すると、カスタマイズされたトレースファイルに含める特定の日付の指定が可能です。CLI はシステムから関連付けられたトレースファイルを取得して、圧縮 zip ファイルに保存して、後で分析するために、PC またはラップトップにコピーすることができるため、システムによってログが上書きされることはありません。

このセクションの以降の表およびタスクでは、**IM and Presence Service** のトレースログファイルを作成するための CLI コマンドの使用方法について説明します。

## トレースを使用した一般的な **IM and Presence** の問題

以下の表では、**IM and Presence Service** に関する一般的な問題および、問題をトラブルシューティングするために実行することができるトレースの一覧が説明されています。

表 1: 一般的な IM and Presence の問題のトラブルシューティング

問題箇所 ...	これらのサービスのトレースの表示	追加手順
ログイン認証	Client Profile Agent Cisco XCP Connection Manager Cisco XCP Router Cisco XCP Authentication Service Cisco Tomcat Security Logs	ログおよび出力場所を作成するための CLI コマンドは、 <a href="#">CLIを介した共通トレース (7 ページ)</a> を参照してください。
アベイラビリティ ステータス	Cisco XCP Connection Manager Cisco XCP Router Cisco Presence Engine	ログおよび出力場所を作成するための CLI コマンドは、 <a href="#">CLIを介した共通トレース (7 ページ)</a> を参照してください。
IM の送受信	Cisco XCP Connection Manager Cisco XCP Router	ログおよび出力場所を作成するための CLI コマンドは、 <a href="#">CLIを介した共通トレース (7 ページ)</a> を参照してください。
連絡先リスト	Cisco XCP Connection Manager Cisco XCP Router Cisco Presence Engine	ログおよび出力場所を作成するための CLI コマンドは、 <a href="#">CLIを介した共通トレース (7 ページ)</a> を参照してください。
チャット ルーム	Cisco XCP Connection Manager Cisco XCP Router Cisco XCP Text Conferencing Manager	ログおよび出力場所を作成するための CLI コマンドは、 <a href="#">CLIを介した共通トレース (7 ページ)</a> を参照してください。
パーティションイントラドメイン フェデレーション	Cisco XCP Router Cisco XCP SIP Federation Connection Manager Cisco SIP Proxy Cisco Presence Engine	ログおよび出力場所を作成するための CLI コマンドは、 <a href="#">CLIを介した共通トレース (7 ページ)</a> を参照してください。  (注) SIP メッセージ交換を確認するには、Cisco SIP Proxy デバッグ ログ機能が必要

問題箇所 ...	これらのサービスのトレースの表示	追加手順
XMPP ベースのドメイン間フェデレーション連絡先のアベイラビリティおよび IM の問題のトレース	Cisco XCP Connection Manager Cisco XCP Router Cisco Presence Engine Cisco XCP XMPP Federation Connection Manager	ログおよび出力場所を作成するための CLI コマンドは、 <a href="#">CLIを介した共通トレース (7 ページ)</a> を参照してください。  XMPP フェデレーションが有効な各 IM and Presence Service ノードで、このトレースを実行する
SIP ドメイン間フェデレーション連絡先のアベイラビリティおよび IM の問題のトレース	Cisco XCP Connection Manager Cisco XCP Router Cisco Presence Engine Cisco SIP Proxy Cisco XCP SIP Federation Connection Manager	ログおよび出力場所を作成するための CLI コマンドは、 <a href="#">CLIを介した共通トレース (7 ページ)</a> を参照してください。
カレンダー トレース	Cisco Presence Engine	ログおよび出力場所を作成するための CLI コマンドは、 <a href="#">CLIを介した共通トレース (7 ページ)</a> を参照してください。
クラスタ間同期トレースおよびクラスタ間トラブルシューティング	Cisco Intercluster Sync Agent Cisco AXL Web Service Cisco Tomcat Security Log Cisco Syslog Agent	クラスタ間のエラーを確認するには、 <a href="#">診断 &gt; システム トラブルシューティング</a> で、システムトラブルシューティングを実行します。
SIP フェデレーション トレース	Cisco SIP Proxy Cisco XCP Router Cisco XCP SIP Federation Connection Manager	ログおよび出力場所を作成するための CLI コマンドは、 <a href="#">CLIを介した共通トレース (7 ページ)</a> を参照してください。
XMPP フェデレーション トレース	Cisco XCP Router Cisco XCP XMPP Federation Connection Manager	ログおよび出力場所を作成するための CLI コマンドは、 <a href="#">CLIを介した共通トレース (7 ページ)</a> を参照してください。

問題箇所 ...	これらのサービスのトレースの表示	追加手順
高 CPU と低 VM のアラートのトラブルシューティング	Cisco XCP Router Cisco XCP SIP Federation Connection Manager Cisco SIP Proxy Cisco Presence Engine Cisco Tomcat Security Log Cisco Syslog Agent	<p>その他のトラブルシューティングを行うには、以下の CLI コマンドを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>show process using-most cpu</code></li> <li>• <code>show process using-most memory</code></li> <li>• <code>utils dbreplication runtimestate</code></li> <li>• <code>utils service list</code></li> </ul> <p>以下の CLI を実行して、RIS (Real-Time Information Service) データを取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>file get activelog cm/log/ris/csv</code></li> </ul> <p>また、Cisco Unified IM and Presence Serviceability のアラームを設定することで、実行時のステータスとシステムの状態に関する情報をローカルシステムのログに提供できます。</p>

## CLIを介した共通トレース

コマンドラインインタフェースを使用して、システムのトラブルシューティングを行うためのトレースログファイルを作成します。CLIを使用して、トレースを実行するコンポーネントを選択して、<duration>を指定することができます。これは、ログファイルに含める、その日から過去にさかのぼる日数です。

以下の2つの表に、トレースログファイルおよびログ出力場所の作成に使用できるCLIコマンドが提示されています。

- IM and Presence サービス
- IM and Presence 機能



(注) CLIは、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で表示可能であるのと同じ個々のトレースファイルのサブセットを取得し、グループ化して単一の圧縮zipファイルに格納します。RTMTトレースの詳細は、[RTMTを介した共通トレース \(12 ページ\)](#) を参照してください。

表 2: CLIを使用したIM and Presence Servicの共通トレース

サービス	ログを作成するための CLI	CLI 出力ファイル
Cisco 監査ログ	file build log cisco_audit_logs <duration>	/epas/trace/log_cisco_audit_logs_*.tar.gz
Cisco Client Profile Agent	file build log cisco_client_profile_agent <duration>	/epas/trace/log_cisco_client_profile_agent_*.tar.gz
Cisco Cluster Manager	file build log cisco_config_agent <duration>	/epas/trace/log_cisco_cluster_manager_*.tar.gz
Cisco Config Agent	file build log cisco_config_agent<duration>	/epas/trace/log_cisco_config_agent_*.tar.gz
Cisco Database Layer Monitor	file build log cisco_database_layer_monitor <duration>	/epas/trace/log_cisco_database_layer_monitor_*.tar.gz
Cisco Intercluster Sync Agent	file build log cisco_inter_cluster_sync_agent <duration>	/epas/trace/log_cisco_inter_cluster_sync_agent_*.tar.gz
Cisco OAM Agent	file build log cisco_oam_agent <duration>	/epas/trace/log_cisco_oam_agent_*.gz
Cisco Presence Engine	file build log cisco_presence_engine <duration>	/epas/trace/log_cisco_presence_engine_*.tar.gz
Cisco RIS (Real-time Information Service) データコレクタ	file build log cisco_ris_data_collector <duration>	/epas/trace/log_cisco_ris_data_collector_*.tar.gz
Cisco サービス管理 (CSM)	file build log cisco_service_management <duration>	/epas/trace/log_cisco_service_management_*.tar.gz
Cisco SIP Proxy	file build log cisco_sip_proxy <duration>	/epas/trace/log_cisco_sip_proxy_*.tar.gz
Cisco Sync Agent	file build log cisco_sync_agent <duration>	/epas/trace/log_cisco_sync_agent_*.tar.gz



サービス	ログを作成するための CLI	CLI 出力ファイル
Cisco XCP Config Manager	file build log cisco_xcp_config_mgr <duration>	/epas/trace/log_cisco_xcp_config_mgr_*.tar.gz
Cisco XCP Router	file build log cisco_xcp_router <duration>	/epas/trace/log_cisco_xcp_router_*.tar.gz

表 3: CLI を使用した IM and Presence 機能の一般的なトレース

機能名	ログを作成するための CLI	CLI 出力ファイル
管理 GUI	file build log admin_ui <duration>	/epas/trace/log_admin_ui_*.tar.gz
一括管理	file build log bat <duration>	/epas/trace/log_bat_*.tar.gz
同期 HTTP 上の Bidirectional-streams	file build log bosh <duration>	/epas/trace/log_bosh_*.tar.gz
証明書	file build log certificates <duration>	/epas/trace/log_certificates_*.gz
設定 エージェント コア	file build log cfg_agent_core <duration>	/epas/trace/log_cfg_agent_core_*.tar.gz
Customer Voice Portal	file build log cvp <duration>	/epas/trace/log_cvp_*.tar.gz
ディレクトリ グループ	file build log directory_groups <duration>	/epas/trace/log_directory_groups_*.tar.gz
ディザスタ リカバリ	file build log disaster_recovery <duration>	/epas/trace/log_disaster_recovery_*.tar.gz
柔軟なIM アドレス	file build log flexable_im_address <duration>	/epas/trace/log_flexible_im_address_*.tar.gz
汎用コア	file build log general_core <duration>	/epas/trace/log_general_core_*.tar.gz
ハイ アベイラビリティ	file build log ha <duration>	/epas/trace/log_ha_*.tar.gz
高いCPU使用率	file build log high_cpu <duration>	/epas/trace/log_high_cpu_*.tar.gz
ハイ メモリ	file build log high_memory <duration>	/epas/trace/log_high_memory_*.tar.gz
インスタントメッセージング データベース コア	file build log imdb <duration>	/epas/trace/log_imdb_core_*.tar.gz

## CLIを介した共通トレース

機能名	ログを作成するための CLI	CLI 出力ファイル
クラスタ間ピアリング	file build log inter_cluster <duration>	/epas/trace/log_inter_cluster_*.tar.gz
マネージドファイル転送	file build log managed_file_transfer <duration>	/epas/trace/log_managed_file_transfer_*.tar.gz
Microsoft Exchange	file build log msft_exchange <duration>	/epas/trace/log_msft_exchange_*.gz
メッセージアーカイバ	file build log msg_archiver <duration>	/epas/trace/log_msg_archiver_*.tar.gz
プレゼンス エンジン コア	file build log pe_core <duration>	/epas/trace/log_pe_core_*.tar.gz
Presence and IM メッセージ交換	file build log presence_im_exchange <duration>	/epas/trace/log_presence_im_exchange_*.tar.gz
SIP ログインの問題	file build log pws <duration>	/epas/trace/log_pws_*.tar.gz
セキュリティの脆弱性	file build log sec_vulnerability <duration>	/epas/trace/log_sec_vulnerability_*.tar.gz
サービスアビリティの GUI	file build log serviceability_ui <duration>	/epas/trace/log_serviceability_ui_*.tar.gz
SIP ドメイン間フェデレーション	file build log sip_inter_federation <duration>	/epas/trace/log_sip_inter_federation_*.tar.gz
SIP パーティションドメイン間フェデレーション	file build log sip_partitioned_federation <duration>	/epas/trace/log_sip_partitioned_federation_*.tar.gz
SIP プロキシコア	file build log sipd_core <duration>	/epas/trace/log_sipd_core_*.tar.gz
常設チャットのハイアビリティ	file build log tc_ha <duration>	/epas/trace/log_tc_ha_*.tar.gz
永続的なチャット	file build log text_conference <duration>	/epas/trace/log_text_conference_*.tar.gz
アップグレードの問題	file build log upgrade_issues <duration>	/epas/trace/log_upgrade_issues_*.tar.gz
□ユーザ接続	file build log user_connectivity <duration>	/epas/trace/log_user_connectivity_*.tar.gz
名簿	file build log user_rosters <duration>	/epas/trace/log_user_rosters_*.tar.gz

機能名	ログを作成するための CLI	CLI 出力ファイル
XCP ルータ コア	file build log xcp_core <duration>	/epas/trace/log_xcp_core_*.tar.gz
XMPP ドメイン間フェデレーション	file build log xmpp_inter_federation <duration>	/epas/trace/log_xmpp_inter_federation_*.tar.gz
展開情報	file build log deployment_info <duration>	/epas/trace/log_deployment_info_*.tar.gz

## CLI 経由のトレースの実行

CLI (コマンドライン インターフェイス) を介してカスタマイズしたトレース ファイルを作成するには、次の手順を使用します。CLI で `duration` パラメータを使用して、トレースに含める過去にさかのぼる日数を指定することができます。CLI は、システム ログのサブセットを取得します。



(注) SFTP サーバーは、ファイル転送にのみに使用してください。

### 始める前に

システムにトレースが設定されている必要があります。トレースを設定する方法の詳細は、*Cisco Unified Serviceability* 管理ガイドの「Traces」の章を参照してください。

実行可能なトレースのリストを [CLI を介した共通トレース \(7 ページ\)](#) で確認します。

### 手順

- Step 1** コマンドライン インターフェイスにログインします。
- Step 2** ログを作成するには、`file build log <name of service> <duration>` CLI コマンドを実行します。`duration` には、トレースに含める日数を指定します。  
たとえば、`file build log cisco_cluster_manager 7` では、Cisco Cluster Manager ログの過去 1 週間分を表示します。
- Step 3** ログを取得するには、`file get activelog <log filepath>` CLI コマンドを実行します。  
たとえば、`file get activelog epas/trace/log_cisco_cluster_manager__2016-09-30-09h41m37s.tar.gz` となります。
- Step 4** システムの安定性を維持するために、取得後にログは削除します。ログを削除するには、`file delete activelog <filepath>` コマンドを実行します。

たとえば、`file delete activelog`  
`epas/trace/log_cisco_cluster_manager__2016-09-30-09h41m37s.tar.gz`となります。

## RTMT を介した共通トレース

次の表に、IM and Presence Service ノードと結果のログファイルで実行できる共通トレースを示します。Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用してトレース ログ ファイルを表示することができます。



- (注) CLI を使用すると、RTMT で表示可能であるのと同じ個々のトレース ファイルのサブセットを取得することができ、単一の圧縮 zip ファイルにまとめて保存することが可能です。CLI トレースの詳細は、[CLI を介した共通トレース \(7 ページ\)](#) を参照してください。

表 4: IM and Presence Service ノードに共通のトレースおよびトレース ログ ファイル

サービス	トレース ログのファイル名
Cisco AXL Web サービス	/tomcat/logs/axl/log4j/axl*.log
Cisco Intercluster Sync Agent	/epas/trace/cupicsa/log4j/icSyncAgent*.log
Cisco Presence Engine	/epas/trace/epe/sdi/epe*.txt.gz
Cisco SIP Proxy	/epas/trace/esp/sdi/esp*.txt.gz
Cisco Syslog Agent	/cm/trace/syslogmib/sdi/syslogmib*.txt
Cisco Tomcat Security Log	/tomcat/logs/security/log4/security*.log
Cisco XCP Authentication Service	/epas/trace/xcp/log/auth-svc-1*.log.gz
Cisco XCP Config Manager	/epas/trace/xcpconfigmgr/log4j/xcpconfigmgr*.log
Cisco XCP Connection Manager	/epas/trace/xcp/log/client-cm-1*.log.gz
Cisco XCP Router	/epas/trace/xcp/log/rtr-jsm-1*.log.gz
Cisco XCP SIP Federation Connection Manager	/epas/trace/xcp/log/sip-cm-3*.log
Cisco XCP Text Conferencing Manager	/epas/trace/xcp/log/txt-conf-1*.log.gz
Cisco XCP XMPP Federation Connection Manager	/epas/trace/xcp/log/xmpp-cm-4*.log
Cluster Manager	/platform/log/clustermgr*.log

サービス	トレース ログのファイル名
Cisco Client Profile Agent (CPA)	/tomcat/logs/epassoap/log4j/EPASSoap*.log
dbmon	/cm/trace/dbl/sdi/dbmon*.txt

# ユーザ ID エラーおよびディレクトリ URI エラーのトラブルシューティング

## 重複したユーザ ID エラーの受信

**問題** ユーザ ID が重複していることを示すアラームを受信しました。これらのユーザの連絡先情報を修正しなければなりません。

**解決法** 次のステップを実行します。

1. **utils users validate { all | userid | uri }** CLI command を使用して、すべてのユーザのリストを生成します。CLI の使用の詳細については、『*Command Line Interface Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。

ユーザ ID に続いて重複したユーザ ID の元となっているサーバのリストが、結果セットに表示されます。次の CLI 出力の例は、出力時のユーザ ID エラーを示しています。

```
Users with Duplicate User IDs
-----
User ID: user3
Node Name
cucm-imp-1
cucm-imp-2
```

2. 同じユーザが 2 台の別のクラスタに割り当てられている場合、いずれかのクラスタからそのユーザの割り当てを解除します。
3. 別のクラスタで異なるユーザに同じユーザ ID が割り当てられている場合、いずれかのユーザに対しユーザ ID 値の名前を変更して、重複がないようにします。
4. ユーザ情報が無効または空白の場合、Cisco Unified Communications Manager Administration の GUI を使用して、そのユーザのユーザ ID 情報を修正します。
5. Cisco Unified Communications Manager 内のユーザ レコードを修正できます。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ ([ユーザの管理 (User Management)] > [エンドユーザ (EndUser)]) を使用することで、必要に応じて、全ユーザに有効なユーザ ID またはディレクトリ URI 値を確実に設定します。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。



(注) ユーザプロファイルの [ユーザ ID (User ID)] フィールドと [ディレクトリ URI (Directory URI)] フィールドが LDAP ディレクトリにマップされている場合があります。その場合は、LDAP ディレクトリ サーバで修正を適用します。

6. 重複したユーザ ID エラーがそれ以上ないことを確認するには、CLI コマンドをもう一度実行してユーザを検証します。

## 重複または無効なディレクトリ URI エラーの受信

**問題** ユーザ ディレクトリ URI が重複または無効であることを示すアラームを受信しました。これらのユーザの連絡先情報を修正しなければなりません。

**解決法** 次のステップを実行します。

1. **utils users validate { all | userid | uri }** CLI command を使用して、すべてのユーザのリストを生成します。CLI の使用の詳細については、『*Command Line Interface Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。

ディレクトリ URI の値、続いて重複または無効なディレクトリ URI の元となっているサーバのリストが、結果セットに表示されます。次の CLI 出力の例は、検証チェック時に検出されたディレクトリ URI エラーを示しています。

```
Users with No Directory URI Configured
-----
Node Name: cucm-imp-2
User ID
user4

Users with Invalid Directory URI Configured
-----
Node Name: cucm-imp-2
User ID   Directory URI
user1     asdf@ASDF@asdf@ADSF@cisco

Users with Duplicate Directory URIs
-----
Directory URI: user1@cisco.com
Node Name   User ID
cucm-imp-1  user4
cucm-imp-2  user3
```

2. 同じユーザが 2 台の別のクラスタに割り当てられている場合、いずれかのクラスタからそのユーザの割り当てを解除します。
3. 別のクラスタで異なるユーザに同じディレクトリ URI が割り当てられている場合、いずれかのユーザに対しディレクトリ URI 値の名前を変更して、重複がないようにします。
4. ユーザ情報が無効または空白の場合、ユーザのディレクトリ URI 情報を修正します。
5. Cisco Unified Communications Manager 内のユーザ レコードを修正できます。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ ([ユーザの管理 (User Management)] > [エンドユーザ (EndUser)]) を使用することで、必要に応じて、全ユーザに有効なユーザ ID または

ディレクトリ URI 値を確実に設定します。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。



- 
- (注) ユーザプロファイルの [ユーザ ID (User ID)] フィールドと [ディレクトリ URI (Directory URI)] フィールドが LDAP ディレクトリにマップされている場合があります。その場合は、LDAP ディレクトリ サーバで修正を適用します。
- 
6. 重複または無効なディレクトリ URI エラーがそれ以上ないことを確認するには、CLI コマンドをもう一度実行してユーザを検証します。

■ 重複または無効なディレクトリ URI エラーの受信



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。